

弓道ながの

第23号

発行：長野県弓道連盟
会長 山川茂樹
〒396-0021
伊那市大字伊那3919-3
TEL0265(72)3060
編集：県弓連広報部
印刷：中央堂印刷社

美しい残心(残身)を目標に(その二)

長野県弓道連盟会長 山川 茂樹



このように一度弓道に志してみれば、なかなか捨てがたい興味も願いもできて、益々奥の奥を極めたくなくなってきます。今まで技だけと心得ていた弓が単に技だけでは解決できない場面に出会うようになってきます。それは技と同時に精神的な面が大きくかかわっていることに気がついてきます。何をもって技を練り、何によって心を鍛えるか、優れた指導者も必要でしょうが、まず何よりも自分の射を強く反省することから始まるのではないのでしょうか。水の流れるように展開して行く射行において、最も顕現する自己の姿は、第一に残心に求めなければならぬと思います。残心は射のすべてを表現していると同時に、直前の会の良否を表し、会はその前の引き分け、打起しを



追悼射会 矢渡

残心を無造作にしたり、残心に関心を持たない弓道人は尊敬に値しないと云っても間違いありません。弓道を修行と考へ、心と技を磨こうと念願している弓道人は、まず残心に最大の関心を払い大切にします。

次に正しい射は必中ではなければなりません。中りはどうでも良いと言つて、中りよりも姿勢や形が大切だと指導する先輩もおります。それも大切ですが、中らない射はどこかに悪いところがありません。無理があつたり、未熟のところがあつたりするわけで反省してみなければなりません。それから中てる弓道を求めていると残心が崩れます。正しい射は正しい中りを得ることが当然だからです。また中らない射、は中つた射よりも一層研究すべきものがそこに沢山あります。どうして中らなかつたか、それを残心の姿に聞いてみる、残心は何と言つて教えてくれるでしょうか。もし残心で解らなかつたら会に聞いて見れば、会は果たして充分であつたかどうかとその射を反省することになります。それ故中りも自分を磨く大切な研磨剤であるわけです。

弦音の良否は更に高尚な指導者であることは申すまでもありません。良く

弦音によって射手の練達度が解ると言われています。

このように反省のないところには進歩はなく、反省こそ最上の練達した指導者であることを心に命ずるべきであります。教本には残心について「離れに

よって射は完成されたのではない。なお残されたものがある。精神で言えば残心、形で言えば残身である。残心は射の総決算である。体形厳然として、縦横十文字の規矩を堅持していなければならぬ。残心の良し悪しによって射全体の判別ができるし、射手の品位格調も反映する」と述べています。残心の教歌に
『見所の なきこそ弓の 上手なれ
これ六根の 揃つゆえなり』
取り立てて見所のない射手こそ上手であると言つ意味である。六根とは(足踏み、胴造り、押手、勝手、物見、心)を言う。一射ごとに反省に努めるとともに、心技両面にわたる研鑽に心がけ、残心(身)が天地左右に十文字に決まり内面的な心の躍動と、技と弓とが一体となつてそこに美しい姿を表現する。この様な美しい残心(身)の姿を目標に日々真を尽くした修練に励むつてはありませんか。

(終)

古澤前会長 栗林前副会長 偲び 追悼射会

昨年九月二十日にご逝去された、範士九段古澤博前会長、同年1月2日に逝去された、範士八段栗林實前副会長を偲んでの追悼射会が、7月29日に長野運動公園弓道場で盛大に行われた。追悼射会には、県内各支部から大勢の会員が参集した。道場内には、在りし日の笑顔の遺影が掲げられ、全員でお二人のご冥福を祈り黙祷。

山川会長から、お二人の長野県弓道連盟発展にご尽力されたご功績に、敬意と感謝を込めた追悼の言葉がありました。続いて、栗林範士ご遺族から在



追悼射を見守る
左・古澤前会長 右・栗林前副会長

りし日の先生のお姿を偲んでのお話とお礼のご挨拶をいただきました。

追悼射では、最初に巻藁射礼(範士九段宮澤廣名誉会長)。次に矢渡(範士八段山川茂樹会長)。続いて一つの射礼(小林義行範士、土川俊市教士、大久保秀雄範士)。持的射礼(清水克也教士、宮下重敬教士、征矢憲錬士、平野英孝教士、外園公毅教士)。が行われました。次に、遺影とご遺族の見守る中、参加者全員による、心を込めての追悼射一手を行い、故人のご功績を称え、ご冥福をお祈りしました。



長野県弓道の更なる発展を誓って
参列者一同礼

鈴木全弓連会長を講師に 教士研修会開催

平成19年度教士研修会が、9月8日～9日長野市運動公園弓道場に、全弓連会長範士九段鈴木三成先生を主任講師に、山川茂樹会長も加わり36名の受講生により、二日間の日程で実施された。

全弓連の会長直接の指導は、昨年引き続き二度目であり、厳しい中でも鈴木会長のお人柄が伝わる研修会でした。



真剣に講義の鈴木会長



時には笑顔も



会心の矢渡後に

連載⑦

私の歩んだ道

大久保秀雄



宇和島国体に参加した長野県弓道選手団 (後列右から2番目が筆者)

もう一つ忘れられないのが、昭和28(1953)年に四国宇和島で開催された第8回国体の時の射だ。県代表として百瀬豊氏と濱与祐氏と共に団体戦に出場し、小的3位に入賞したのだが、私が出場した国体での成績はこれが最高だった。大会後、うれしい気持ちをかみしめながら3人そろって金毘羅(こんびら)さんにお参りに行ったことも忘れられない思い出だ。びつくりしたこともあった。大会の合間に闘牛見物に招待されたのだが、御者にけしかけられた牛同士が、どうしてこれほどまでにと思つほど壮絶に戦い合つていったのだ。その迫力にはただただ驚いたものだった。

仕事に、弓道の練習にと毎日打ち込んでいた私にとって、当時、もうひとつ大切な仕事があった。昭和22(1947)年から14年間、長野県弓道連盟の事務局局長を務めていたのだ。

事務局は県弓道連盟の会長宅に置かれていたので、仕事と練習が終わると、毎日のように会長宅に行き、県の役員への連絡業務や、県内各地で行われた段級審査会にかかわる煩雑な事務仕事などに追われていた。昭和34(1959)年の東京国体には、小瀬水信夫氏、斉藤貞雄氏と一緒に長野県代表として団体戦に出場したが、予選で敗退した。

この時の敗因は、3人とも当てよう当てようと力んで固くなりすぎ、平常心を失つてしまったからだと思つた。ちなみに、どうすれば常に平常心を保つことができるか。とよく聞かれるが、とにかく、一にも二にも練習あるのみだと答えて良いのではなく、1射ごとに晴れの大会の気持ちを持つこと。そして、大会に臨むでは常に練習の時の気持ちを持つことが大切なのだ。

また、できるだけいろいろな大会に出場し、晴れの舞台を数多く経験することも大切だ。場数を踏めば踏むほど平常心を保ちやすくなり、強くなれるのだ。それは、裏を返せばどんなに力や能力があつても、経験が伴わない若者は決して上には立てないということにもつながる。弓道が人間形成を念願とする道であると説かれるゆえんだ。

さて、昭和30(1955)年ころはストライキ、列車の前への座り込みなど激しい労組の攻勢が行われた。国鉄の労働争議華やかになりし時代だったが、なんと当時職場で労働関係の事務を行つていた私が、その労使の交渉窓口となつてしまつた。激しく食い下がつてくる労組に対し、経営者側の論理を説明しなければならぬ、なんとも気持ち暗くなる仕事だった。遅くまで必死に法律の勉強をし、常に理論武装をしていなければ、たちまち労組側に圧倒されてしまつたため相応なストレスも抱えていた。しかし、ここで弓道に大きく助けられたのだ。

昼休みに弓道場に走り、4、5本矢を射ると頭の中がスカツツとして、不思議とまた仕事に向かおうという意欲がわいてきた。私にとって弓が格好のストレス解消法であることをこのとき知つた。本当に弓道をやつていてよかつた。あの時のつらい仕事は、弓道のおかげで乗り切れたように思える。

昭和15(1940)年鉄道省に就職した私は、途中、日本国有鉄道と名称を変えた職場を38年間勤め上げ、昭和53(1978)年に退職した。当時、きちんと弓道部が組織されている企業など珍しかつたことを思うにつけ、入社してから退職するまで、ずっと職場の弓道部で練習に励むことができたことを幸せに思う。

また、二足のわらじのように県弓道連盟の事務局局長を14年間務めたのはじめ、長野支部長や県連理事などの仕事ができただつた。労使の板挟みに立つて大変な思いをしたこともあつたが、弓道を続けるうえで、本当に恵まれた職場で働くことができたとしみじみ思えてならない。

国鉄を退職する前年、県連の副会長となつた私の一番の大仕事は、県弓道連盟史を昭和22(1947)年の創立にさかのぼつてまとめあげることだつた。歴代の役員や、各種大会で優秀な成績を収めた県内選手の名前など膨大な資料探しにあたらねばならず、ため息が出そうだつたが、当時の記録を詳細に持つていた、弓仲間の井掘孝雄さんの協力のおかげで正確に記録をまとめ直すことができた。大きな使命を果たすことができたように思う。

さて、国鉄を退職した私の第二の就職先は八十二銀行だつた。行内メール係という仕事に就くことになつたのだ。小学校6年のころ、長野商業を卒業したら、銀行に勤めたいなあ」と考えていたことを思い出し、なんだかうれい気分になつたものだ。

またしばらくすると、長野市の主催で第1回初心者弓道教室を東和田の運動公園内の弓道場で開催することになり、その運営指導を任されることになった。昭和54(1979)年2月のことだつた。

昼の部は主婦中心に、夜の部は勤め人中心に合せて40人ほどが集まり、総勢10人ほどの講師が指導にあつた。私はちょうど銀行が変則的な勤務で昼間時間が取れたので、心置きなく昼の部の指導に専念できた。教室は前期、後期2回卒業生を出し、10月に修了したが、正直なところ週2時間ずつ練習した程度では到底一人前の弓士には程遠く、これで終わりにしてしまふのはなんと中途半端だと思つていた。

すると、生徒のみなさんから「引き続き練習していきなさい」という強い希望が出たので、長野運動公園弓道クラブが発足することになった。クラブの結成式はその年の10月28日に行われ、私が初代会長を引き受けることになつた。当時は体育館3階の弓道場で練習していたが、翌年、運動公園敷地内に大弓道場が完成したのでそちらに練習場所を移し一層熱を入れていた。

現在部員は160人ほど。市主催の初心者弓道教室の卒業生が、続々クラブに入部している割には部員は増えていない。しばらく練習して思うように弓が引けないと、やめてしまふ人が多いからなのだ。これがスランプで、どんなに練習を積んでも必ずぶつかる。スランプは長い時は2、3年はまることもあるし、案外わずかな時間で抜け出せることもある。いずれにせよ、スランプを耐え忍んで修練を続けてきた人だけが高段の域に近づいて行くのだ。

現在、市の初心者弓道教室卒業生からクラブに入部したうち、15人が全日本弓道連盟の段級審査に合格し、指導者として認められる教士と練士の称号を持つている。全くの初心者からここまで昇りつめるのはかなり難しいことなので、とても感心している。

平成19年度北信越地区女子講習会に参加して

練士六段 大久保まき子

6月23日24日 長野運動公園弓道場

講師 菊池スエ範士 中塚祥一郎範士

川村光良範士

第一日目 矢後後講評

第一介添について

立った時又坐った時射手に気を入れる。射手の後より立つて後退する時そのまま上方に立つ。射手に寄掛らない為。

第二介添について

的に八分射場に二分であるが、広い道場では七分三分でもよいのではないが。蹲踞はお尻を上げて射手に集中する。

一手行射の講評

足踏みが狭い(富士山は裾野が広いから美しい)。縦線は大切である。横線は誰にでもできる。十文字が大切。弓を強く握り過ぎない。的中主義ではないが的中しなければならぬ。何か自己を主張し訴えるものがなければ個性がない。全体に丁寧過ぎる。形に捕らわれず躍動感ある射を又格好だけでなく弓と格闘するつもりで。

第二日目 一つ射礼後の講評

大前は正しい本座をとる、後退した時

は元の位置に正しく。一つの是水車が回る様にどこからも同じように流れて淀みなく。三角が小さくならない様に介添研修では特に本座での弓の受け渡し方を皆で何回も挑戦した。

川村範士よりのお話

「離すな！無限の彼方を狙え！切羽詰まるまで引いて離せばよい。ウルトラCの弓を引け。弓を教える人間より弓で教える人間になりなさい！」とご自身、教えを受けられたそうです。

閉講式 菊池範士のお言葉

「旦那様や子供ご家族に、自分の好きな事でも出してもらい只今！お陰様で行って来れました。と感謝の気持ちで帰りましょう。」



全日本選手権 北信越ブロック予選会

7月22日/富山県射水市弓道場

決定戦は各自一手3回を行い、的中制により上位3名を北信越ブロック代表として、全日本選手権大会に出場する。

男子ブロック代表

小林 憲二(新潟)

大口 晴男(長野)

木下 外治(石川)

女子ブロック代表

坂本 祐子(石川)

五十嵐由美子(富山)

津田憂美子(石川)

なお、長野県代表として本大会に出場する選手は次のとおり。

男子 大口 晴男(飯山)

新津 一夫(長鉄)

女子 久保田智恵(上伊那)

全日本選手権大会

伊勢神宮弓道場にて開催

男子: 9月21日~23日

女子: 9月23日~25日



天皇盃 第58回全日本男子弓道選手権大会

9月21日~23日/伊勢神宮弓道場

長野県関係者成績

新津一夫選手 4射3中 予選不通過

大口晴男選手 4射1中 同

決勝 10射

優勝 吉澤(埼玉) 9中

2位 小倉(大分) 9中

3位 大山(静岡) 9中

4位 澤田(岐阜) 9中

5位 荒川(北海道) 9中

皇后盃 第40回全日本女子弓道選手権大会

9月23日~25日/伊勢神宮弓道場

長野県関係者成績

久保田智恵選手 4射3中 予選不通過

決勝 10射

優勝 齋藤(東京一) 7中

2位 大久保(鹿児島) 7中

3位 桑田(栃木) 7中

4位 近久(徳島) 7中

5位 大澤(広島) 6中

全信州弓道支部対抗競技会 並びに国体及び全日本弓道 選手権大会出場選手壮行会

9月2日/県営飯田弓道場

全秋の爽やかな朝、県下16支部の選抜された精鋭選手が気合に満ちた顔つきで弓道場に集合し、各支部の名譽にかけ戦いを繰り広げようとしています。開会式の後、会長の矢渡、国体選手並びに全日本選手権出場選手の壮行射会が行われ、いよいよ支部対抗戦の幕が切つて落とされ、各支部の熾烈な戦いが始まりました。

国体選手を擁する諏訪支部対県下一実力の飯伊支部、それを追い駆ける各支部の戦いが始まり、とても見応えのある対抗戦でしたが、気の付いたこともありません。今後の課題としていただければと思います。

講評で会長が述べていたように、入退場については、今一度各自が確認をしてほしいと思います。また、残心(身)弓倒し、物見返しをきちんとしてほしいものです。物見返しが先になつてしまつ方が大変多く見られました。的中を逸した時も表情を変えない訓練も必

要でしょう。それとやはり早気は、最大の敵のようでしたので粘りを身に付けましょう。

今回は女子の選手が少ないようでしたので、女子の奮起を期待します。

競技部長 大蔵務

近的競技(60射)

(団体)

諏訪支部 43中(志村仁・清水伸)

浩・中村宏・相沢勝浩・市川隆光)

飯伊支部 41中(塩沢忍・常盤二)

男・松枝敏広・下平春夫・牧内和宏)

上伊那支部 40中(中田真也・山岸稔)

員・滋野一義・春日貴・久保田千恵)

(個人)

牧内和宏 11中(飯伊)

中村 宏 10中(諏訪)

志村 仁 10中(諏訪)

遠的競技(60射)

(団体)

諏訪支部 44中(志村仁・相沢勝)

浩・中村宏・市川隆光・木下祿章)

飯伊支部 44中(塩沢忍・常盤三男)

・松枝敏広・木村由紀子・牧内和宏)

上小支部 35中(村山弘信・戸田裕)

子・中野栄治・小林博正・清水克也)

(個人)

中村宏 12中(諏訪)

牧内和宏 12中(飯伊)
松枝敏広 11中(飯伊)

(総合) 優勝 諏訪支部



総合優勝 諏訪チーム

長野県弓道遠的選手権大会 第58回全日本遠的選手権大会 会県予選

8月5日/長野運動公園弓道場

男子の部(16射)

上條 寛(松本) 11中

大口 晴男(飯山) 11中

大和 邦浩(塩尻) 11中

矢ヶ崎英次郎(長野) 10中

志村 仁(諏訪) 10中

女子の部(16射)

山田 昌代(諏訪) 13中

栗林 薫(松本) 12中

清水 和代(飯山) 10中

伊藤 梓(長野) 9中

芝 史恵(松本) 8中

全日本遠的大会長野県代表

男子 上條 寛(松本)

大口 晴男(飯山)

女子 清水 和代(飯山)

棚田 千鶴(長野)

全日本遠的選手権大会東京中央道場

10月27日~28日

ねんりんピック

全国大会予選会

6月9日/岡谷市弓道場

参加者22名

全国大会出場者

監督 清水 克也(上小)

選手 菅沼 昭彦(飯伊)

嶋倉 雅司(上伊那)

道上 英子(佐久)

今井 勉(上伊那)

清水 克也(上小)

補欠 藤巻 助次(南佐久)

竹内 博(長野)

全国大会は11月10日~13日茨城県で開催されます。

第28回北信越国民体育大会 弓道競技会 少年男女国体出場権獲得

8月25日～26日/福井県

〔遠的〕競技成績 36射

少年男子 長野県20点(松井剛82点・小林大志 69点・須澤良光 69点)

新潟県 169点 富山県 164点

少年女子 長野県 146点(高山明日菜 37点・須山佳奈 44点・徳高由樹 65点)

富山県 121点 福井県 118点

成年女子 富山県 172点 長野県 152点(栗林薫 47点・久保田美紀 59点・米山美奈 46点)

福井県 151点

成年男子 石川県 220点 富山県 198点 新潟県 175点 長野県 164点

(志村仁 62点・中村宏 65点・市川隆光 37点)

〔近的〕競技成績 36射

少年男子 富山県 28中 石川県 27中 福井県 26中 長野県 25中(松井剛 10中・小林大志 8中・須澤良光 7中)

少年女子 石川県 25中 富山県 22中 長野県 20中(高山明日菜 5中・須山佳奈 7中・徳高由樹 8中)

成年女子 石川県 27中 富山県 27中

県 23中 新潟県 21中 長野県 15中(栗林薫 9中・久保田美紀 6中・米山美奈 0中)

成年男子 長野県 30中(志村仁 11中・中村宏 10中・市川隆光 9中)

富山県 29中 石川県 28中

〔総合成績〕

少年男子 富山県 9点 長野県 8点 石川県 6点 新潟県 5点 福井県 4点

少年女子 長野県 9点 石川県 8点 富山県 8点 福井県 5点 新潟県 2点

成年男子

富山県 10点 石川県 8点 長野県 5点 福井県 5点 新潟県 4点

成年女子 石川県 9点 長野県 8点 富山県 8点 新潟県 5点 福井県 5点

第62回国民体育大会秋季大会

10月5日～8日 秋田県

(出場県) 少年男子 富山県 長野県 少年女子 長野県 石川県

成年女子 富山県 成年男子 第62回大会まで各県1チーム出場

「国体選手のあり方」

少年男子 松井 剛

「国体選手は弓道のスペシャリストだ。」と北嶋強化部長はおっしゃいます。果たして僕達、少年男子はスペシャリストと言えるような選手でしょうか。胸着を忘れる僕(松井)、大会前に骨折する小林、いつも自信過剰な須澤。こんなヘンテコリンなメンバーを統率してくれている僕たちの監督の山浦先生。そんな僕達は8月26日、27日に北信越国体に挑みました。結果は遠的1位近的4位。総合2位という結果で終わり、団体としてかろうじて本国体行き

の切符を手に入れたようなものです。僕個人としても満足のいく結果ではありませんでした。国体は3人立の1チーム編成なので1人が調子を落とすとチーム全体が崩れてしまう。しかし完璧な人間はどこにもいなく、もし誰かが調子が落ちた時に支えてくれるのは信頼できる仲間

の2人だと思えます。北信越国体では「僕が、僕が」と自分のことばかりで、

自分の仲間を信頼できていなかったように感じます。僕達が北信越国体で不本意な結果だったのは「気持ち」の面で他県に負けていたんだと思います。個人個人がしっかりとした目標を持ち、それに向かって団体として一丸になって進んでいく、団体戦の基本が欠けていたのではないのでしょうか。これからの練習は更に苦しいものになっていく事だと思えます。僕としてはそれを踏破した時に自信に繋がっていくと思うのである面で楽しみでもありません。

最後になりましたが、山川会長をはじめ強化部員の方々や高校での支援、家族の方々がいなければ今の僕は無いと思つて本当に感謝しています。本国体は「松井剛、小林大志、須澤良光、山浦博」で優勝してきました。



(須澤 小林 松井)選手 山浦監督

第62回秋田わか杉国体 に向けて

少年女子監督 永藤 聡

第28回北信越国体は、長野県から一番遠い福井県で開催されました。さらに今年は、何処でも暑かった様ですが、福井県はとても暑かったです。その遠くて暑い福井まで、応援に来て戴いた方が多数おられたのには、感激いたしました。また、役員、関係者の皆様から暖かいご声援を戴き、厚くお礼申し上げます。

さて、北信越国体では、一日目に遠的、二日目に近的を行います。ここ数年、長野県の少年は男女共一日目の遠的で一位をとれず、二日目の近的で一位が取れた時に、逆転で何とか本国体の出場権を得てきたのが実情です。

今年は、遠的一位を北信越で勝ち取る事を目標に、早い時期から遠的強化を行い、ここ数年の科学委員会の成果を生かして弓具を選び、また空間に射放つための色々な工夫を行いました。結果少年女子は遠的一位、近的三位、総合一位で本国体の出場権を得ましたので、目標達成の様に見えるが、実際は実力を出し切った訳ではなく、他

の県があまり中らず、一位が転がり込んで来たのが本当の所です。選手達もこの事は分かっていますので、この借りはきつと本番で返してくれるものと期待しています。

長野県の高校三年生で、公式戦のために弓を引いているのは、団体少年の男女六人となりました。この時期の三年生の練習は何かと困難な事が多いと思いますが、引き続き周囲の皆様のご理解と御協力をお願いいたします。そして全国の高校三年生で、一番最後まで弓が引ける一チームになる事を目指し、秋田わか杉国体で戦って来ます。



永藤監督 (高山 徳 嵩 須山) 選手

秋田わか杉国体に向けて

成年男子監督 大口 晴男

平成20年に大分県で行われる「おおいた国体」から実施される、監督の付かないチーム編成の前哨戦として行われた8月の北信越国体の反省を踏まえ、成年男子チームは稽古を積んできました。的中を求めるには、何をしなくてはならないか、自分の射を見つめなおすことを、まず取り組みました。自分の「できること」はなにか、「できないこと」はなにかを、まず整理し、できることは自分なりの考えできちんとすること。できない、できていないものについては、周囲の者から指導をうけること。と、言うように整理し取り組んできました。

成年男子は今年度まで、本国体にスリートに出場できませんが、来年度からはブロック予選を通過せねばなりません。北信越は各県が力をつけていて、大変難しい状況にあります。正しい射を身に着けるよう、日々の稽古が必要になります。幸い今年度の選手は癖で中てる者はいません。自分なりの正しい射をもっている選手です。本番でも周囲の動きに左右されることなく、自

分たちの射をしてくるつもりです。長野県の射は、「これだ」と言う意気込みで試合に臨みたいと思います。

選手の中には、地元の弓友の皆さんには、いろいろと稽古をする上でご迷惑をおかけしていると思います。選手を温かく見守り、激励をいただきましたことにお礼を申し上げます。選手たちにも「感謝」の心を忘れるなど、話しています。あなたたちだけの力で国体に行けるわけではない、予選会に出場した仲間、日頃稽古する道場の仲間、一週間もの間空ける職場の仲間、そして暖かく送り出してくれる家族がいてくれるから国体に出場できることに、「感謝」しなければなりません。

ご声援いただきありがとうございます。ありがとうございました。



(市川 中村 志村) 選手

各地大会



第6回長野県弓道大会 in 長野

7月16日/長野運動公園弓道場

参加者 122名

中学生個人(8射)

灌澤知世(長野日大) 4中 梅原

萌花同) 4中 依田晴香同) 3中

一般個人(8射)

高橋正弘(上小) 7中 宮川登

(上小) 7中 外山勇一(長野) 7中

一般団体(24射)

丸子体協(高木賢一・山崎廣行・宮

川登) 19中 尚弓会(外山勇一・飯

田秀樹・古澤金蔵) 17中 飯山ダン

デイズ(岡田宏之・河野利一・小山

喜代二) 14中

奥山誠治

第22回北信地区高校大会

9月2日/長野運動公園弓道場

参加者 546名

男子団体の部(24射)

須坂高校D(町田郷樹・山崎智寛・藤

井裕樹) 17中 屋代高校A(徳武怜・

宮島諒一・坂口直之) 15中 長野西高

C(山崎聖也・山崎洋輔・中島弾) 15中

女子団体の部(24射)

長野西高校C(藤牧はる佳・森川あ

かね・小林茉莉奈) 15中 須坂高校

B(山崎綾紗・土屋晴香・樋口美保子)

12中 飯山北高校C(山田早織・川

島舞・小林彩) 12中

男子個人の部(8射)

町田郷樹(須坂高校) 8中 佐藤

孝紀(長野高校) 6中 平林直樹

(屋代高校) 6中

女子個人の部(8射)

山岸香織(長野吉田高校) 7中

轟まりな(同) 6中 小林茉莉奈

(長野西高校) 6中 小林義一

第53回大町市市制記念県下弓道大会

9月9日/大町市運動公園弓道場

参加者 151名

近的の部

一般団体

木曾義仲(大島健裕・松原重実・林

義泰) 東御(荻原清人・戸田裕子

・飛知和明弘) 中信コモンズ(高

砂健司・卯之原知也・丸山恒治)

一般個人

飛知和明宏(東御) 林義泰(木

曾義仲) 大島健裕(同)

私と弓道

飯田市大瀬木 古川 節子(四段)

私が弓道に出会ったのは、今から八年前の六十八歳の時です。息子が弓道を学んでおり、自宅を新築する折に弓道場を建設することになり、私にも勧めてくれたことに始まります。



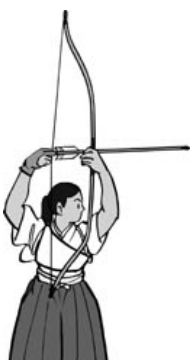
ました。月例射会では、会員の皆様にもとても励まされ毎日継続して稽古することの大切さを実感しました。毎日健康に暮らしております。

小岩井八重子先生、松島貞治先生、藤沢敏子先生、原富子先生、木村由紀子さん、関島美奈子さん、下條陽子先生、加藤修平さん、

塩澤忍先生、他多くの皆様に日ごろよりお心遣いを頂き、弓道を通じて困難なことも負けない心を養い、日常生活に生かすことができるようになって、同志の皆さんに心から感謝して居ります。

世の中には魅力的なことが色々ありますが、弓道の魅力が大勢の年輩の方に理解して頂き、一人でも多くの方が弓道を志される事を望みます。

稽古を重ねるに連れて老いも若きも男女の区別もないという弓道の魅力に惹かれ、日増しに自宅の「志誠館弓道場」で徐々に弓を手にするほどになり



高校団体

松商学園A(百瀬由美香・西口朋美

・下里郁美) 松商学園C(林陽介

・田多井弘子・征矢大展) 松商学園

B(土屋夕貴・呉井里実・吉田美都)

高校個人

大平慧(豊科高校) 渡辺研二郎

(県ヶ丘高校) 呉井里実(松商学園)

遠的の部

一般個人

戸田裕子(東御) 伊藤淳 大和

邦浩(塩尻)

高校個人

大平慧(豊科高校) 渡辺研二郎

(県ヶ丘高校) 倉科陽平(大町高校)

降旗忠男

第24回無相大師奉賛弓道大会

(高校の部)

9月16日/中野市菅弓道場

参加者 470名

男子団体(24射)

長野吉田(羽田克起・櫻井大助・矢島

良純) 17中 長野西(山崎聖也・山崎

洋輔・中島弾) 17中 長野日大(中村

朋起・川端裕斗・米倉康太) 14中

女子団体(24射)

須坂(峰村仁子・鈴木瑛里・山崎由

紀) 14中 中野西(竹内志織・山

本博美・中林真希) 12中 長野日大

(澤田茜・佐藤遥菜・武井美和) 12中

男子個人

櫻井大助(長野吉田) 藤井裕樹

(須坂) 安藤直貴(須坂東)

女子個人

澤田茜(長野日大) 山崎由紀(須

坂) 山本博美(中野西)

土屋義雄

第49回塩尻市武道大会弓道大会

9月17日/塩尻市弓道場

参加者 233名

一般団体

諏訪支部(中村宏・竹岡幸彦・市川

隆光) 長野運動公園(伊藤梓・佐

藤正之・中島勤) 松本Z(矢沢有

史・小越剛)

高校団体

志学館B(大池真捺・米窪有希・清

水恵子) 豊科高B(綱島芳恵・上

田智里・折井里江) 木曾高B(石

其優季・小林理穂・山崎すばる)

個人

市川隆光(諏訪支部) 米窪有希

(志学館) 春原由美子(上田)

加藤さち子

弓仲間紹介

一期一会

長野支部 平岩真吾(五段)

弓仲間ということ、この場をお借りし高校時代の後輩を紹介したい。

平成11年、私は地

元飯田市の下伊那農

業高校入學と同時に

弓道班へ入班した。

当時、我が弓道班

には指導者がおらず、

私達は先輩から手ほ

どぎを受けたものの、

それも3年生の引退

までであった。どの

ように弓を扱えばよ

いのかわからないま

ま、弓射も風紀も斜

陽していった。

新一年生を迎える

年になると、私達は

後輩たちに何も教え

られない無力を痛感した。「弓道を習い

たい」そんな一心で、私達は弓道教室

(飯田市菅弓道場)、双松館弓道場(村

松康尾飯伊支部会長宅道場)、志誠館弓

道場(古川忠司先生宅道場)へ、弓道

を教えて頂きに通った。夕方の班活動



文中の後輩たちと(前列右から3番目が筆者)

後に先生方の道場へ通い、御教授頂いた事を持ち帰り、翌日の朝夕の班活動でそのまま後輩たちに伝える、という日々を繰り返した。このような毎日の稽古は筆舌に尽くしがたいもので、同期の仲間たちは一人また一人と毎日の稽古から遠ざかる中、後輩たちは皆最後までついてきてくれた。

そんな後輩たちの日々の姿から、私は弓道の要諦である至誠と礼節を学ぶことが出来た。そして何より、弓道班再建を願う一念発起できたのも、この後輩たちがいてくれたからこそである。おかげで私は、今も弓道を続け魅力に浸り、弓道を教材に人間形成・人格向上の糧として取り組んでいる。後輩たちには礼を尽くしても尽くしきれないこの様な後輩たちにめぐり合うことができた私は、最高に幸せ者である。

「弓道が大好き」私の中で弓道をこんな境地にさせてくれた仲間を大切にしたい。今後に出会う多くの仲間に希望を抱き、これからもより一層、弓道修練に励んでいきたい。

最高に幸せ者である。「弓道が大好き」私の中で弓道をこんな境地にさせてくれた仲間を大切にしたい。今後に出会う多くの仲間に希望を抱き、これからもより一層、弓道修練に励んでいきたい。

第47回須坂大会(高校の部)

8月25日/須坂市弓道場

参加者 526名

男子団体の部 24射

須坂D(町田郷樹・山崎智寛・藤井裕樹) 16中 屋代E(小出俊貴・森

泉海里・宇都宮壯顕) 16中 長野西C

(植村健一郎・山崎洋輔・中島弾) 13中

女子団体の部 24射

屋代E(伊藤莉奈・宮入すみれ・瀬

在優実) 14中 長野日大F(澤田茜

・佐藤遥菜・武井美和) 12中 長

野吉田G(轟まりな・島田あゆみ・竹

内理紗) 12中

男子個人の部 8射

森泉海里(屋代) 7中 中村敬彦

(須坂東) 6中 町田郷樹(須坂)

6中 田川洋平(吉田) 6中 藤

井裕樹(須坂) 6中

女子個人の部 8射

中島優季(屋代) 7中 宮入すみ

れ(屋代) 6中 吉田有希(松代) 6

中 小林春菜(松代) 6中 轟ま

りな(吉田) 6中

第47回須坂大会(一般の部)

8月26日/須坂市弓道場

参加者 53名

近的団体の部 12射

尚弓会(松倉志・外山勇一・飯田秀樹) 10中 上田A(小林博正・高橋

正弘・森山敏広) 9中 とんぼ(松

澤みさ子・等々力純子・大蔵務) 8中

近的個人の部 16射

松倉志(尚弓会) 14中 岡田宏之

(飯山) 14中 飛知和明弘(東御)

新津一夫(須坂) 13中 森山敏広

(上田) 12中

遠的個人の部 8射

戸田裕子(東御) 6中 中村紀子

(運動公園) 6中 伊藤梓(ほしく

み) 6中

神田裕司(中電) 5中 小山謙太

郎(矢渡) 5中

永藤 聡

第27回中央道沿線都市親善スポーツ大会弓道競技会

8月5日/県営飯田弓道場

参加者 291名

高校男子個人の部

長沼慧(阿南) 窪田貴之(伊那北)

宮澤聖也(赤穂) 村田啓一(松川)

丸山尚史(飯工)

高校女子個人の部

向山美穂(赤穂) 樽見ゆかり(甲

府商) 安藤佳代(恵那南) 渡澤ひ

ろみ(甲府商) 松下奈那美(下農)

一般個人の部

塩澤忍(志誠館) 三城信和(東栄)

西林信彦(東栄) 若尾武宏(土岐

商OB) 大橋誠矢(中津川)

団体の部

土岐OB(田中智久・水野統之・若

尾武宏) 志誠館(中田真也・塩澤忍

・古川忠司)

東栄(西村信彦・青山進・三城信和)

村松康尾

審査合格者

臨時中央審査 5月27日 滋賀

錬士の部 山本雅晃(長野)

山梨連合審査 5月13日 山梨県

五段の部 清水 寛(長野)

教員特別審査 8月11日 日高市

五段の部 盛田奈緒子(中高)

北信越臨時中央審査

9月15日 射水市

錬士の部 原 富子(飯伊)

荒木義博(長野)

お詫び 前号(第二十二号)七頁写真の「中田先生」のお名前を「田中」と表記してしまいました。訂正のうえお詫び申し上げます。

編集後記

「信州は涼しい」が普通ですが、今年は暑い暑い連続でした。埼玉や熊谷方面では、連日四十度を越える猛暑だと報道されていました。これも地球温暖化による異常気象の現れでしょうか? 考えさせられます。9月も終わり、ようやく風にも秋を感じ稲の穂も黄色に色づき、刈り入れを待っているようです。

恒例の「全信州弓道支部対抗競技会」も各支部の選手がそれぞれに健闘されて、盛大に行われ無事終了しました。尚それぞれの大会に出場される選手の壮行会も行われ、決意表明もありました。各種目出場選手の健闘を心から祈るものです。「弓道なごの」の編集にかかわり、思う事は、どの位の会員の方がどの様に関心を持ち興味を持っているか? を考えさせられます。いずれにせよ会員の方と共によりよい「弓道なごの」を作るよう努力したいと思えますので宜しくお願い申し上げます。夏に発生する「雷」は夏の季語「稲妻」は秋季に変わる、雷光を受けて稲も実る、弓を引く私も「実る程頭を垂れる稲穂かな」の心境で頑張りたいと思います。(鷹野良信)